



「害虫は駆除しなければ」。ミャンマー軍のコメント。なんてひどい！

以前、初めてミャンマーを訪れた時、人々は真面目で、日常に仏教が浸透し、穏やかな空気だった。しかしアウン・サン・スー・チー氏が自宅軟禁の時期、15年間の格子なき監獄生活、とても想像がつかない。建国の父と称され、将軍だった父親譲りの強さなのか？...

らへ
かー
マ
マ
ル
マ
ビ
ミ



辻畑 隆子

生の宿」つまり「ホーム・スイート・ホーム」を合唱。言葉は通じなくても敵、味方の心は同じ。皆、祖国に帰りたい！...。小隊は降伏し、やがて水島は僧侶の身なりで移動。しかし途上の死体の多さにがくぜん。散乱する遺体を埋葬していく。水島の敬礼はいつしか合掌に。

復員が決まった小隊が収容所で「荒城の月」を合唱している時、豎琴の伴奏が！ エッ？ 横たわる巨大な仏(中には遺骨が並ぶ)。その中で豎琴を奏でる水島。なんと...。もちろん調和か？。もちろん

水島は皆と同じ船には乗らず、供養の旅へ。

数々の国際賞に輝いた市川崑監督のセリフなしの作品に内在する人間表現。水島のモデルとなったのは群馬県の寺の住職だったとか。

まだビルマ時代の白黒映画「ビルマの豎琴」は幼い私にもかなりの衝撃だった。日本軍のある小隊の隊長は音楽家のせい、いつも合唱で皆の心を一つにした。その中でも、水島上等兵は楽才に優れ、戦法に自作の豎琴の演奏を。ところが敵軍のイギリス軍も「墳

(彫刻家・日出町)